

上越地域在宅医療推進センター

第四回在宅療養支援機能 スキルアップ懇談会を開催しました

○11月10日（月）19時より上越医師会館にて第四回在宅療養支援機能スキルアップ懇談会を開催しました。参加者は上越医師会会員（診療所医師14名、病院医師1名）、上越地域在宅歯科医療連携室より歯科医師5名、歯科衛生士2名、地域包括支援センターケアマネジャー・社会福祉士6名、居宅介護支援事業所ケアマネジャー6名、訪問看護ステーション看護師4名、病院・診療所看護師4名、上越市・妙高市行政より5名、事務局4名、推進センターコーディネーター2名の53名でした。

○懇談会プログラム

- ▶ご講話 「在宅訪問歯科診療の現場から-多職種協働で支える“食べる力”-」 田中紀裕先生
(上越歯科医師会在宅歯科医療連携室室長)
座長：羽尾和久（介護保険部副担当理事）
 - ▶テーブル懇談と発表（7グループ）
 - ▶全体のまとめ、アンケート記入
- 五十嵐介護保険部副担当理事に司会進行を務めていただきました。グループワークのファシリテーターは地域包括支援センターの皆様にお願いいたしました。いつも短時間に活発な意見交換がされています。



○アンケート結果（回収率91%）

1)懇談会の目的の理解 2)講話の理解 3)グループワーク 4)全体評価は、全職種とも①十分理解できた ②理解できたを合わせた評価がほぼ100%を占めました。

●懇談会で聞かれた医師の声

- ・“今より食べられるところにゴールを設定する”という発想がなかった。誤嚥等を考え守りの姿勢だった。
- ・在宅診療において口腔管理は重要と思っていたが、予想以上に訪問歯科診療がされていると知った。今後依頼していきたい。
- ・指示する側としては安全第一になる。「あまり無理しないで」と言いがち。
- ・現在、食事量がアップできそうな事例があるためアセスメントし介入したい。
- ・歯科医に依頼するタイミングが遅いかなと思うことがあり嚥下内視鏡を準備したが実用できていない。歯科医と連携できる体制があると良い。
- ・糖尿病の人へは歯科受診を勧めている。体重減少が-5キロになると義歯が合わなくなる。
- ・歯科に紹介したい患者が多い→在宅歯科医療連携室に相談してほしい。
- ・最新情報をふまえ現場に実装しやすいツールを紹介いただき大変参考になった。今後の医療の重要なテーマだと思う。より広く情報共有していただきたい内容だ。
- ・口腔ケア、口腔フレイルの理解が深まった。

●取り上げてほしい内容、その他要望について

- ・訪問薬剤師の話
- ・訪問での摂食嚥下リハビリテーション

アンケートのご意見も参考させていただきます。医師会員の先生方が気軽にご参加いただける会になるよう工夫して参ります。是非、次回もご参加下さい。